

ICT を活用した効率的な捕獲わなの導入（宇部市）

1 導入の目的

宇部市では猟友会の会員を非常勤嘱託職員の有害鳥獣捕獲員に任命し、有害鳥獣捕獲活動に取り組んでいるが、会員の高齢化が課題となっている。

このため、センサーにより箱わなの扉を閉める機器及びセンサーが作動すると、管理者にメールで通知するシステムを導入し、会員の労力軽減を図る。また、同機器は獲物の大きさを判別して扉を閉めることができるため、繁殖能力が高い成獣のイノシシの効率的な捕獲が期待される。

2 導入した機器の概要等

導入機器名及び数量	アニマルセンサー 2：9 基 ほかパト：親機 1 基、子機 9 基
設置場所	親機：宇部市大字小野 [アクトビレッジおの] 子機：宇部市大字小野地区 宇部市大字二俣瀬地区
捕獲対象鳥獣	イノシシ
設置時期	令和2年1月



3 効果

イノシシ 5 頭（成獣）

令和2年度は宇部市南部での導入を予定しており、猟友会員に ICT 機器を活用していただき、その効果を実感していただきながら、エリアの拡大に向けて検討を進めていく。

4 機器を使用しているユーザーからの声

経験を要する仕掛けの必要もなく、罠が作動した際に通知が届くことから、事前に止め刺し等の道具の準備や人手の確保が可能となり、猟友会員の負担の軽減につながっている。